

昨年12月X'masシーズンに9日間、学生たちとラヨン、アユタヤ、バンコクとタイ研修旅行に行ってきました。この時期は乾季でしたので蒸し暑さはありませんでしたが、気温は日中30度から36度の猛暑です。サンタとスノーマンのイメージが強い私達にとってタイで迎えるX'masは興味深いものでした。校外の観光客が集まる所でささやかなX'masツリーがありました。仏教国ですのであまり見受けません。しかし、都心に入ると特にバンコクでは、ホテルや商業施設には、日本とはケタ違いのゴージャスな装飾が施されており、メルヘンの国に来たようなイメージで十分に楽しませてくれました。猛暑に耐えているようなスノーマンも印象的でした。また、五つ星ホテルの館内の切花装飾でも、いたるところに大なり小なりと花装飾の心配りがあり、華やかで心も和みます。丁度、800人の来賓が出席する婚礼装飾があり、これも日本とはケタ違いの花の量です。物価の違いが大きな要因としても、フローリストを養成する立場として羨ましい花の使い方でした。メインの花はタイの名産の蘭が主流ですが、北部のチェンマイなどでできる豊富な花、インポートも充実しているようです。色のセンスもよく、強い日差しに映える原色がグレイッシュな色と上手く調和されており、上品な色合いに写ります。デザインは専属フローリストが約3ヶ月前にホテル側と打ち合わせをするそうです。



ホテルの敷地は大変広く、通路、中庭、プールサイドと多くの庭があります。どれも熱帯植物がメインですが、日本食レストラン街では日本庭園風の坪庭を見かけます。日本人の設計施工ではないと思えるのですが、心が安らぎました。タイの切花装飾、ガーデン装飾などの造形美は、大変洗練されておりモダンです。有名なノンノッチトロピカルガーデンは、広大な敷地に整然と計画された造形花壇であり、太陽の恵みを受け、訪れた人々を魅了します。感心なことは造形美を保つ徹底したメンテナンスです。

タイは信仰心が強く、常に仏様や神様に花を添える習慣から、花や緑が生活の中に密着しています。世界からプランツハンターが買い付けに来るグリーンマーケットや、半端ではない量の眠らない夜の花市場など、花の消費力のすごさを実感しました。観光客と共に、眼光の鋭いビジネスマンも世界中から来ています。日本のクリスマスとは違い、熱気に溢れたムードでした。ほほえみの国、タイの元気な花たちと会いに再び行きたいものです。

竹越美智子(大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校)